

令和元年度 板取川の水難事故

令和元年 8月12日(月)岐阜新聞

板取川2人死亡

17歳と32歳別の場所で遊泳

最大で9連休となるお盆休み2日目の11日、県内ではレジャー中の川の水難事故が相次いだ。関市では2人が死亡、中津川市では1人が行方不明となった。

関市板取の板取川で午前11時20分ごろ、可児郡御嵩町中切の派遣社員土居靖久さん(32)が流された。約30メートル下流にいた4人の男性が助けたが、搬送先の市内の病院で死亡が確認された。死因は溺死。

関署によると、土居さんは家族2人と泳ぎに来ていた。長男(11)と一緒に川に入って遊んでいた時、深みに足を取られたらしい。現場付近の川幅は約8メートル、水深は約3メートル。増水はしていなかったという。

また約3キロ下流の同市洞戸高賀の板取川で午後4時50分ごろ、同市豊岡町の会性は腹部の内臓を損傷する重傷を負った。

多治見署によると、現場は県道と市道が交わる信号交差点で、県道を北進中の伊藤さんと、右から来た女性の車が出合い頭に衝突した。署で事故原因を調べている。

社員安田諒星さん(17)が、水面からの高さ約10メートルの高橋から飛び込んだ後、姿が見えなくなった。すぐに友人男性2人が川底から救助したが、約3時間40分後、搬送先の愛知県内の病院で死亡が確認された。死因は溺死。同署によると、安田さんは男女の友人計5人と来ていた。救助時外傷はなかったが、意識不明の状態だった。

中津川市坂下の木曾川では午後4時20分ごろ、男性が流された。中津川署と消防が捜索したが発見できず、午後6時45分に捜索を打ち切った。

署によると、流されたのは名古屋市内の40代の男性とみられ、知人女性(41)と2人で来ていた。男性が川の中ほどで溺れているのに女性が気づき、近くに住む男性(72)が110番した。

現場は乙姫大橋の約200メートル上流で、川幅約70メートル、水深は2メートル以上あった。あまり遊泳には使われない場所で、増水していなかったが、流れは泳ぐのが危険なほど速かったという。

12日午前6時から捜索を再開する。

深みに足を取られる---川底は淵に向かって斜めに深くなるが、この川底は動きやすい砂や砂利でできており、

一旦この斜面に入ると、アリ地獄に陥ったようになり、引き返すことが出来ず、溺れてしまう。

橋から飛び込み---飛び降りたとき砂利や岩の川底に激突したり、水面に叩きつけられて、溺れてしまう。

